

福井が好きだから  
伝えたい・残したい、福井の宝もの。

# 紐人

SOCIAL PAPER KUMIBITO

【特集】世紀の発見の一一番手

昔とのつながりを  
肌で感じる  
それが我々  
うれしてうれしくて



No.30  
2017

# 不思議ですよ どれだけ昔の物でも 出てきた瞬間に つながるんですよ

戦国時代の都市の遺跡で、これだけきれいな状態で残っているのは全国でもここしかない、と文化財調査員の川越光洋さんは言う。福井県福井市城戸ノ内町。足羽川の南、静かな山あいに位置するこの一帯に「一乗谷朝倉氏遺跡」がある。

戦国時代に越前国の中心として繁栄した朝倉氏は、天下統一の戦いで織田信長に敗れた。その際に焼き尽くされた館や城下町は、長い年月の中で土砂や田畠の下にそのままの形で埋もれていった。

昭和42年に発掘調査が開始され、町並みや庭園、また当時の文化や生産・流通を裏付ける遺物が数多く出土されている。「本当に貴重な遺跡、そのことをもっと県民の人にも知つて欲しい」と話す川越さん。金工細工の刀装具や、ガラス玉と工房跡の発見など、10年近く一乗谷の遺跡発

掘調査に携わってきた。「古文書に書かれていた事や推定していた事が証明されることがやりがい。それに発掘をやっていると、毎回なにか新しいものが見つかってくる、ということが楽しいなと思います」

発掘調査は、まず田畠の新しい時代の堆積土を重機で除去した後、スコップやジョレンという道具で人力によって地層を一枚ずつ丁寧に削っていく。そう、発掘調査の主役は多い時には60名程にもなるという作業員の方々。一乗谷では最高齢84歳の方もいるというから驚きだ。「地道でしょう？でもけつこうロマンありますよ、朝倉は」

現場では、

若い時にこの仕事をしたかった、

という櫻川準一さんが掘り下げ作業に励んでいた。10年前に東京からUターンしたのち、この仕事を思い出し、人材募集に飛びついた。「私自身も5年前に鏡を発掘して：あれからもうやみつきやね。もう今はどっぷり浸かってます。今年で73歳だから、もういい加減辞めたら？ってうちの

家内は笑うんですけど、こればっかりはロマンですかね」



2010年の調査で、土の中にきれいな緑色を見つけおもわず「あつ！」と声が出て、と当時を振り返る中野さん。ガラス玉の発見など、歴史を塗り替える瞬間に数多く立ち会ってきた。「やめられんのや。やっぱ好きなんやね」今の楽しみは、発掘の仕事をしながら、全国の遺跡や歴史を見て回ること、だそう。



文化財調査員の川越さんは、発掘調査や遺物整理、発掘調査報告の作成のほか、貴重な遺跡の魅力を少しでも多くの方に伝えるべく展覧会などを通じた教育普及活動にも尽力する。「まずは身近な作業員さんたちと、歴史の楽しさや一乗谷の魅力を共有するのが楽しい。みんなどんどん詳しくなっています」



